

インターバンクの声（2016 年 1 月 20 日）

アジア時間に上海株が上昇したことや原油価格が30ドル台に持ち直していたこともあって、ドル円はロンドン市場の昼頃によく118円台に戻り、為替市場のリスク回避姿勢も後退するかにも思われた。しかし、昨夜の海外市場でのドル円の高値はまさにこの場面だけで、持ち直していた原油価格が再び下落に転じると、足並みを揃えるようにドル円も117円30銭台に戻ってしまった。中国の2015年GDP成長率をそれなりに評価するのか、まだまだ先行きのリスクが高いと考えるのかにもよるが、どうも中国経済については懐疑的な見方をする人たちが依然多数派のようだ。原油価格についても、値頃感による買いが入り始めたようにも思われたが、イランへの制裁解除で一層の需給悪化が懸念されるとあっては下値が見えてくるのも少し先になりそうだ。今週中は、市場センチメントが劇的に変化することになりそうなイベントや目立つ指標もなく、欧州中央銀行（ECB）理事会も追加緩和には動かないはずで、来週の米連邦公開市場委員会（FOMC）までは広めのレンジ内での取引が続くことになりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。